

平成23年2月10日

13時～18時

【部長挨拶】

- ・第64回の全国植樹祭は、平成25年の春、5月～6月頃に皇室をお迎えして開催予定。
- ・会場をとっとり花回廊と奥大山 鏡ヶ成高原として計画。
- ・前回開催から数えて48年ぶりの開催。
- ・県民や国民の森林に関する意識も、前回開催時とは変わってきている。
- ・以前は、森林が循環していた時期もあったが、最近の情勢を見ると、どうしても森林に入る機会が少なく、松くい虫の問題や、ナラ枯れの問題等、山に関わる問題も出てきている。
- ・実際、県民が森林に入ったり、木材が使用されたりするようになると、森林を所有する人も生活ができて、それを使用する皆さんにも、喜んで使ってもらえる、循環型の社会ができて、山も荒れないという状況になると思う。
- ・そういう意味から、県も、県民の皆様に応援を願って、平成17年から森林環境保全税を使って森づくりをしたり、企業の応援を願っての共生の森の活動や、最近になるとJ-VERのカーボンオフセット等で、炭酸ガス吸収の機能を売り物にできないかということで、先般山崎製パンには、150トン購入いただいたところ。
- ・今、山崎製パンを買うと、一品について1円が森づくりに反映される仕組みになってきている。
- ・そういうことが軌道に乗って来ると、森林も良い方向で整備されるのではないかと考えているが、その成長には長期間を要するため、そのほかにもいろいろ必要な事項がある。
- ・国も県も、木材が出来るだけ低コストで皆様に供給できるような体制を作り、そこで働く人も生活できて、それを使う人も便利になるような世界を作っていかなければならないと思っている。
- ・今回の全国植樹祭の式典に際しては、出来るだけ木をたくさん使っていこうということで、木製のベンチの使用を計画している。
- ・についてはその木製ベンチをどういうものにしようか、デザイン性もあるが、安全性や色々な人に使ってもらえる必要から、ある程度安価でこれに見合う程度の経済性を持ったベンチでなければならないとも思っている。
- ・今日の審査項目の中にも、そのような項目が載っているので、そういうところに重点を置きながら審査していただければと思っている。

## 【最優秀提案者のプレゼンテーション】

< J パネル部門 > 大山プレカット協業組合 吉岡専務理事 プレゼンテーション

- ・ 植樹祭使用後も色々なイベントに持ち運ぶこともあるので、移動も考え、出来るだけ軽く、なおかつ頑丈である、座りごちが良いことを狙いとして作った。
- ・ 作り方もシンプルで、なおかつデザインが適当。ローコストで、比較的手間がかからない。
- ・ 塗装は、自然塗料で有名なオスモ。耐候性で屋外使用のクリアー。
- ・ 保管は、スタッキングできないのは弱点だが、その分、軽さでカバー。
- ・ 天板は一枚板でカーブはかけていない。座り心地は若干落ちるかもしれないが、強度やコストの面からバランスさせた。

### ○主な質疑

- ・ 重さはどの程度？
  - ほぼ、J パネル1枚分。15キロ程度。
- ・ しっかりしている。安価だ。
  - 横揺れ防止に、補強材も入れている。
- ・ シンプルで見た感じが良い。
  - シンプルで丈夫。当社が作るのはそういうものが多い。
- ・ 安価なのはどうして？
  - J パネル一枚分の値段と工賃。塗装費用と納入場所までの運搬費用、加えて少々の経費。直線パットだけで済ませているので、手間はかからない。
- ・ 脚を収納できないか？
  - 色々研究。金物使用を考えたが、コスト面、最終的にはがたつきの問題がクリアできないため断念

< 無垢部門 > 智頭町森林組合 林田課長補佐 プレゼンテーション

- ・ 鳥取県の自然は西に雄大な大山、東の大砂丘は、観光とともに県民に力を与えてくれる。この自然のもとに、県産材の智頭杉を、浮づくり仕上げとして、大山の山麓稜線、また砂丘の風紋を表現。手触り等、癒しを育み安心と楽しさを与えるようにした。
- ・ 会場設営上簡単に持ち運べて、軟弱地でもめり込まないようデザイン。
- ・ 脚がしっかり固定できるように、一枚板の金具使用とし、安全性に配慮。また、運搬・設置・収納が楽にできるように一体構造の折りたたみ式とした。
- ・ 品質等は、智頭杉の良さを強調し、天板は滑らないよう「浮づくり」としたので、手

で触って感触を味わってもらいたい。節穴は埋木処理・面取り・割れは、十分乾燥を行った。

- ・塗装は、木の特色をだすために、クリア塗装。
- ・実施体制等は、木材の調達は大森組合が町内で杉を搬出、製材、乾燥は大森組合の木材加工センターで行う。加工は、智頭木材流通加工で行った。

#### ○主な質疑

- ・ 脚の取り付け位置が、内側すぎて不安定。縁に人が座ると倒れる心配はないか？  
→ あくまでも3人掛けの設計。4人や5人で偏って座ると不安定になる可能性もある。取り付け位置の変更は可能。
- ・ 天板は「浮づくり」がしてあり、すごく美しいのに、そり止めが美観を損ねている。  
→ そり止めの位置等に関して再検討する。
- ・ 天板の角をもっと柔らかく丸く削るとよい。
- ・ このベンチが沢山会場に並んだら本当に砂丘の風紋の雰囲気が出る。

#### < L V L 部門 > 中国工業株式会社 廣谷代表取締役社長 プレゼンテーション

- ・ 非常に多くの L V L を使用。0.56m<sup>3</sup> 程度で、25 キログラム程度。
- ・ 表現したかったのは、重量感とシンプルな構造。パーツの数は多いが、量産可能なように、共通品を多くした。
- ・ デザイン的には、影が大山になるようにしている。一方から光を当てると、山肌が凸凹になって出てきて、下に降りていくような形で、ちょうど影が大山の山の様に出る。デザインは清水デザイナーにお願いした。
- ・ 後利用は、ストリートベンチ。メンテナンスをしていけば屋外でも耐えうることを実証試験中。L V L の車止めに塗料を塗って3年経過。外観的に見ると、1年ごとに塗装をかければ、シリコン系木材用塗料でも大丈夫。スギは本来、腐りにくい樹種。L V L は接着剤がフェノール系のオロチ製で、かなり固いものだ。
- ・ 構造的には L V L にダボを埋め込む、ダボ構造。
- ・ 座り心地等は、面を上に出したことで、良くなったのではないかと考えている。
- ・ 塗装は、水性塗料にウレタン打ちだが、ウレタンを塗らなくても水性塗料の仕上げ剤だけで、十分環境に対応していけると考える。
- ・ シャープなエッジ。角面等はもうすこし R をとった方が良いのかもしれないが、シャープな線を出したいというデザイナーの意向もあり角にしている。

## ○主な質疑

- 座った感じが、あまりよくない。6本のパネルの内、真中の2本が少々低くなれば、乗った時にソフトにあたるかと思う。
  - 対応可能。
- 脚は下の方にゆがみが出そう。上からの荷重に対して脚の部分が弱い。
  - 天板の横木と脚の縦木は、斜めにカットしたものと土を接合する。斜めに固定してより強固にする様検討。
- 脚の止めが無いので、足のぐらつきが出る。
  - 脚に止め板を入れる。天板と同じ様にサンドして、ぐらつきを抑えるよう検討。
- それを入れると今度はパネル内側に脚を入れることができなくなる。
  - 入れ込む寸法が半分程度になる。
- 材料の使用量が多い。同じ面が6種類あるが、真中の4枚は上面だけにしようか？
  - 影型が変わってしまうが、工夫次第で可能。
- シャープさが売りとのことだが、角が丸くなるとデザインがおかしくなるか？
  - 一部は丸くてもおかしくない。
- 多くの木が使っていることで、その背景にある豊かな森林を想像できる。

【最優秀作品決定協議の結果】

< J パネル部門 > 大山プレカット協業組合

(講評)

- ・ 普及性を考えて、安全でコンパクトでシンプルなデザインが素晴らしい。

(決定協議における主なコメント)

- ・ 価格面で差。単価 1 万 8 千円程度で安価。
- ・ 椅子らしいアクセント。安全性もある。
- ・ 足の部分の 50 ミリの飛び出しはこんなに長くなくても良い。限界まで削ってもらう。
- ・ 仕上げをもっと丁寧に。天板上にうすい「浮づくり」をかけてもらうとよい。

< 無垢部門 > 智頭町森林組合

(講評)

- ・ 「浮づくり」の砂丘の風紋をイメージした鳥取らしさが素晴らしい。

(決定協議における主なコメント)

- ・ 智頭スギの模様の良さが山にすごく映える。座板の角にもっと丸みがつくと更によい。
- ・ 鳥取らしさが出ている。
- ・ ベンチらしいデザイン。足の形を変える等の工夫があると良い。
- ・ 鳥取砂丘を想像させる「風紋づくり」という名前もよいのでは。

< L V L 部門 > 中国工業株式会社

(講評)

- ・ 斬新なデザインと、L V L の特徴が際立って出ているのが素晴らしい。

(決定協議における主なコメント)

- ・ 完成された夏向きの涼しげなデザイン
- ・ 意匠等の造形的な部分で登録の可能性